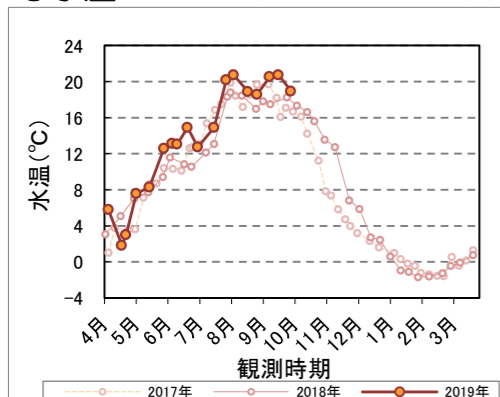


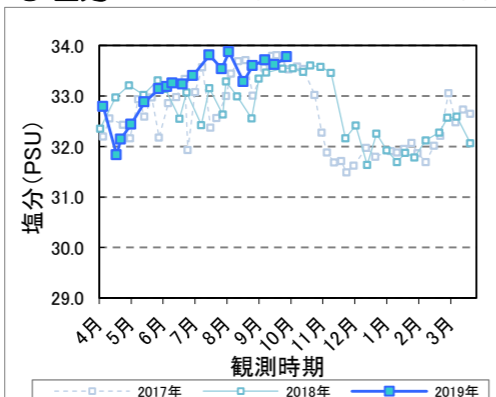
◎オホーツクタワーの動物プランクトン分析速報 (2019年9月)

海洋環境データ

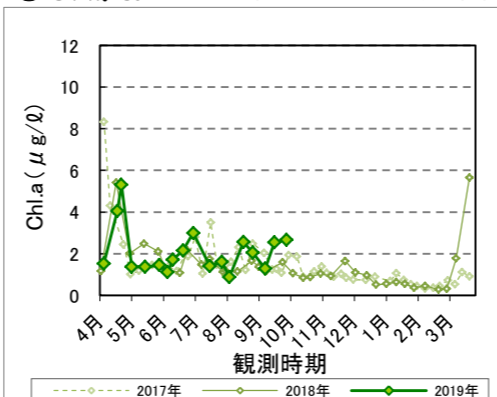
◎水温 (0~9mまでの平均値)



◎塩分 (0~9mまでの平均値)



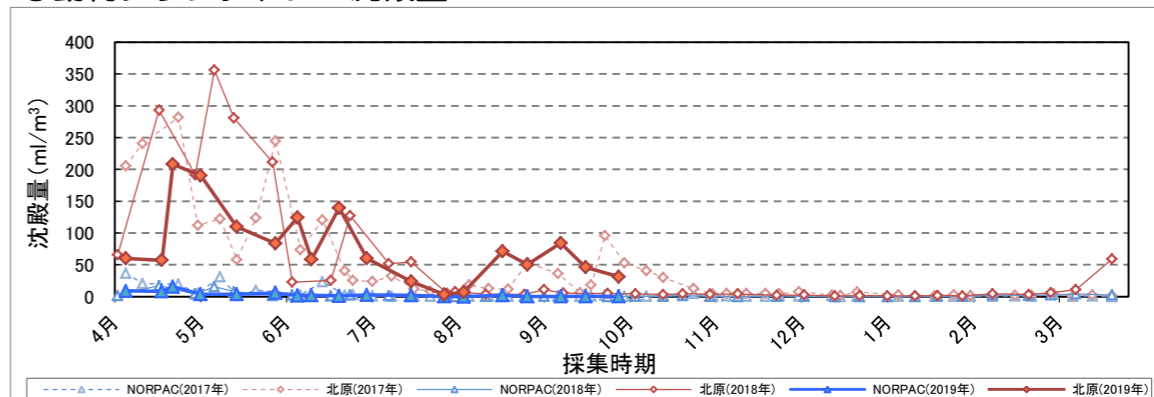
◎Chl. a (0~9mまでの平均値)



動物プランクトンデータ

※分析：(株)エコニクス

◎動物プランクトン・沈殿量



概要

	9月9日	9月18日	9月30日
平均水温 (°C)	20.5	20.7	18.9
平均塩分 (PSU)	33.7	33.6	33.8
平均Chl.a (µg/L)	1.3	2.5	2.7
沈殿量 (ml/m³)	(NORPACネット) 0.4 (北原式定量ネット) 84.1	(NORPACネット) 0.4 (北原式定量ネット) 46.1	(NORPACネット) 0.4 (北原式定量ネット) 31.3
主な出現種	<p>(NORPACネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○<i>Paracalanus parvus</i> s. l. [+] ○<i>Clausocalanus peterseni</i> [+] ○<i>Eurytemora pacifica</i> [+] ○<i>Acartia hudsonica</i> [+] <p>(北原式定量ネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎<i>Paracalanus parvus</i> s. l. [+++] ○<i>Acartia hudsonica</i> [+] ○<i>Oithona nana</i> [+] 	<p>(NORPACネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○<i>Paracalanus parvus</i> s. l. [+] ○<i>Eurytemora pacifica</i> [+] ○<i>Pseudodiaptomus marinus</i> [+] ○<i>Acartia hudsonica</i> [+] ○<i>Acartia steueri</i> [+] <p>(北原式定量ネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎<i>Paracalanus parvus</i> s. l. [+++] ○<i>Centropages bradyi</i> [+] ○<i>Acartia hudsonica</i> [+] ○<i>Acartia steueri</i> [+] 	<p>(NORPACネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○<i>Paracalanus parvus</i> s. l. [+] ○<i>Centropages maigo</i> [+] ○<i>Acartia hudsonica</i> [+] ◎<i>Acartia steueri</i> [+++] ◎Copepoda (nauplius) [++++] ○<i>Penilia avirostris</i> [+] <p>(北原式定量ネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎<i>Paracalanus parvus</i> s. l. [+++] ○<i>Acartia hudsonica</i> [+] ◎<i>Acartia steueri</i> [+++] ○<i>Penilia avirostris</i> [+]
備考	(NORPACネット) — (北原式定量ネット) 珪藻かなり多い	(NORPACネット) 腐植質やや多い (北原式定量ネット) 珪藻・腐植質かなり多い	(NORPACネット) — (北原式定量ネット) 珪藻かなり多い

出現量の多かった種類

●*Paracalanus parvus* s. l. (対称性の1種: 丸い形) [暖水性]
体長: ♀0.7-1.0mm, ♂0.8-1.0mm. 全世界の沿岸域表層。本州中部以南では特に、東北以北では多く見られる。

●*Podon polyphemoides* (対称性の1種) [暖水性]
体長: ♀0.2-0.6mm, ♂0.3-0.7mm. 太平洋、日本海沿岸部、瀬戸内海。体は小型で丸い形をし、体に対して大きな眼をもっている。背面は普通球形または半球状で、腹部の幅がくびれることが特徴。

●*Acartia steueri* (対称性の1種: 丸い形) [暖水性]
体長: ♀1.1-1.6mm, ♂0.9-1.3mm. 北西太平洋沿岸。日本では北海道から琉球列島の内海、沿岸。高奥の感層で繁殖することがある。

●*Evadne tergestina* (対称性の1種) [暖水性]
体長: ♀0.3-0.9mm, ♂0.3-0.6mm. 日本では太平洋、日本海、瀬戸内海。8月に出現した*Evadne nordmanni* (ノルドマンエボシミジンコ) によく似ているが、後脚にトゲ状の突起がないため区別できる。

●Copepoda (nauplius) (対称性の1種) [暖水性]
カイアシ類の若生中の幼生。脱皮を繰り返してノープリウス幼生、コメヒトデ幼生の段階を経て成体になる。海産魚類の仔魚生類には、餌としてのカイアシ類のノープリウス幼生密度が決定的といわれている。

●Ophiuroidea (echinopluteus) (対称性の1種) [暖水性]
クモヒトデ類の若生(幼生)。細く長い腕が山形に広がり、中央には口が開いている。腕の部分は動かす、人工衛星のような姿で変形することなく、ゆっくりと動く。

●*Penilia avirostris* (対称性の1種) [暖水性]
体長: ♀0.4-1.2mm, ♂0.7-0.9mm. 日本では太平洋、日本海沿岸、瀬戸内海。殻はうすく透明で、体の中身がはっきりと透けて見える。背面は背側にあり、卵を産んで子どもを育てるときだけ大きくなる。

●Echinoidea (echinopluteus) (対称性の1種) [暖水性]
クモヒトデ類の若生(幼生)。細く長い腕が山形に広がり、中央には口が開いている。腕の部分は動かす、人工衛星のような姿で変形することなく、ゆっくりと動く。

※海洋環境データ欄の水温、塩分、Chl.aのグラフは、水深0~9mまでの平均値をプロットしたものである。平均水温、平均塩分、平均Chl.a欄の数値は、表示の都合上、水深0~9mまでの平均値を小数第2位で四捨五入した値で示し、グラフ上の表示と異なる場合がある。
 ※種名の先頭に“◎”がつく種類は、出現量の多い種類を示す。[]内の“+”は分析者の経験から、サンプル中の個体数の多さが後述の程度であると判断し、区分したグループである(+出現、++やや多い、+++多い、++++かなり多い、+++++極めて多い)。
 ※種名の後ろの記号は、分析者の経験から北海道における出現傾向に後述の特徴があると判断し、区分したグループである(◆冷水性種、◆暖水性種、■汽水性種)。
 ※今月のサンプルには珪藻類(植物プランクトンの仲間)、腐植質(主に枯死・分解した植物由来の物質)が多く含まれており、沈殿量の数値はこれを含む。
 ※参考文献:
 ①千原・村野(1997) 日本産海洋プランクトン検索図説[東海大学出版会] ②山路(1966) 日本海洋プランクトン図鑑[保育社] ③若市立ミクロ生物館 監修(2011) 日本の海産プランクトン図鑑[共立出版]
 ④Wilson, M. S. (1966) North American Harpacticoid copepods, 8: The *Daniellsenia sibirica* group, with description of *D. stefanssoni* Willey from Alaska. *Pac. Sci.* 20 (4), 435-444.
 ⑤Pinchuk, A. I. & Hopcroft, R. R. (2006) Egg production and early development of *Thysanoessa inermis* and *Euphausia pacifica* (Crustacea: Euphausiacea) in the northern Gulf of Alaska. *J. Exp. Mar. Biol. Ecol.* 332, 206-215.
 ⑥林(2006) 水産無脊椎動物学入門[恒里社] ⑦Ohtsuka, S., H. Itoh & T. Mizushima. (2005) A new species of the calanoid copepod genus *Centropages* (Crustacea) collected from Shimizu Port, middle Japan: Introduced or not? *Plankton Biol. Ecol.* 52 (2), 92-99.
 ⑧西・加藤(2002) 日本産カムリゴカイ科多毛類の分類について. *タクサ* 13, 5-17. ⑨今島(1996) 環形動物 多毛類[生物研究社] ⑩日本プランクトン学会 監修(2011) すかん プランクトン[技術評論社] ⑪水島・鳥澤 監修(2003) 漁業生物図鑑 新 北のさかなたち[北海道新聞社]
 ⑫古賀(1960) *Centropages abdominalis* SATOのノープリウス幼生. *日本水産学会誌* 26 (9), 877-881. ⑬伊藤・水島・久保田(2005) 駿河湾三保沖におけるカラヌス目カイアシ類の季節的消長. *東海大学紀要海洋学* 3 (1), 19-35.
 ⑭大越・野村(1990) 穿孔性多毛類*Polychaeta*属による北海道地方、東北地方沿岸のホウテイ貝浸食状況. *日本水産学会誌* 56 (10), 1593-1598. ⑮水島・久保田・平野・リンズィー(2015) 日本クラゲ大図鑑[平凡社]